止まらぬアジア進出

～若手経営者はどう見る

シンポジウムのテーマは「グローバル競争に勝ち残る中小企業のモノづくり」。アリーナの高山慎也社長、日本クロス圧延の岡征俊社長、坂口電熱の蜂谷真弓社長、ナノテムの高田篤社長、羽生田鉄工所の羽生田豪太社長が登壇した。後半はフロアからも南武の野村伯英副社長が登場した。コーディネーターは日刊工業新聞社社長の井水治博が務めた。

出席者（順不同）

日本クロス圧延社長（千葉県茂原市）　岡　征俊氏
アリーナ社長（福島県南相馬市）　高山　慎也氏
坂口電熱社長（東京都千代田区）　蜂谷　真弓氏
ナノテム社長（新潟県長岡市）　高田　篤氏
羽生田鉄工所社長（長野市）　羽生田　豪太氏
コーディネーター　日刊工業新聞社社長　井水　治博

井水　本日は「グローバル競争に勝ち残る中小企業のモノづくり」という大変大きなタイトルでお話をさせていただくことになりました。お若い新進気鋭の経営者の皆さまにお話をおうかがいできるということで、大変楽しみにしております。

このところ経済の主役が欧米からアジアへと移ってきています。特に欧州の債務危機が発生してからはその傾向に拍車がかかっている状況です。

一方国内は少子高齢化で市場が縮小している上、円高とデフレ、電気料金の引き上げも手伝ってモノづくり企業にとっては大変苦しい状況です。そんな中でアジアに新天地を求める企業の動きは強まってきていますが、海外進出と言っても越えなければならない関門はたくさんあります。今日は、海外進出についての率直な意見を皆さまにお聞きしたいと思います。

まずアリーナの高山社長からお願いします。アリーナは東日本大震災で被災されましたが、復興の状況も含めて最近の景況を聞かせて下さい。

高山　私どもは電子部品の組み立て業務をやっています。携帯電話や車載向けのブルートゥースモジュール、カーオーディオなどを作っている会社です。震災では地震の被害だけでしたが、精密加工をやっておりますのですぐに直して復旧というわけにはいかず、非常に徒労感がありました。ですがその後、国や自治体からたくさんの補助をいただき、建物を立派にして設備も一部新しくしました。

ところが従業員は「私の給料はどうなったんですか」と。そこが景況感のところです。海外からの原子力発電所事故の風評被害は根強く、福島どころか日本に仕事を発注するなというところもあります。その中でどう仕事を受注するかを考えて自動車向けにシフトしてきたのですが、それが問題だったようです。欧州危機を皮切りに、尖閣諸島をめぐる日中間のあつれきが発生し、不買運動の影響が直撃しました。今は生産がほとんどないような状況です。ただ、そのほかの製品を安定的に作っていこうという流れのほか、今取り組んでいる新しいビジネスを強力に進めていこうと考えています。海外との取り組みも後ほどお話しします。

コーディネーター　井水治博

井水　大変厳しい状況の中で、しっかりと次の挑戦も考えておられる姿勢が素晴らしいと思います。尖閣問題など、世の中突然何が起こるか分かりません。それもリスクとして織り込んでいかなければならないところがグローバル経営の難しいところだと思います。

続いて日本クロス圧延の岡社長にうかがいます。強みや景況はいかがでしょうか。

岡　私どもはいわゆる材料メーカーです。主に試作用途や研究開発向けに材料を供給しています。特殊鋼メーカーでは1トンはないと扱いませんが、当社では10キログラムでも喜んで販売します。また一般的に鉄鋼の納期は3カ月ですが、当社は10日ほどで納入できます。材料は非常に狭い産業である半面、電子部品やエネルギーなどいろいろな分野で使われています。

最近の景気の動向は、半導体や電子部品によく使われるインバーという材料の動きが非常に悪い。昔は担当者レベルで済んだ数十万円程度の注文が、わざわざ資材を通ってくる。昔に比べて値段も渋くなっています。そんな中「値段は上げられないけれど、サービスは向上します」ということで、扱う品目を増やしています。またたとえ10グラムの注文でも、明日にでも発送できるような体制を整えていこうと思っています。ただ、開発国が海外にシフトしているように思います。今、海外の新規案件がかなり増えていて、例えばシンガポールやマレーシアのほうがエネルギー関係の資金は潤沢のようです。逆に日本のメーカーはあまり元気がありません。海外での取り組みは後ほどお話します。

井水　ありがとうございます。日本での開発が滞っているというお話は少し心配ですね。縦と横にクロスして圧延するというクロス圧延の技術は貴社独自のものなんですか。

岡　もともとは米国など海外でやっていたんですが、短い材料しかできません。当社は連続プレスで対応して、長い材料も扱えます。

日本連合で世界と勝負

アリーナ　高山　慎也氏

井水　なるほど、そういう意味ではオンリーワン企業ということですね。これからも大いに頑張って下さい。

続いて坂口電熱の蜂谷社長にうかがいます。坂口電熱は産業用ヒーターの駆け込み寺と言われていますが、最近の景況はいかがでしょうか。

蜂谷　私どもはモノづくりの加熱工程で必要なヒーターや温度センサー、コントローラー、絶縁材など熱に関するありとあらゆるアイテムを取り扱っています。創業者は私の母の父で、90年前にもともと羅紗（らしゃ）問屋をやっていました。取引先の若い担当者が羅紗地に炭火のアイロンをかけているのを見て発想し、電気のアイロンを産業用に開発したのが転身のきっかけでした。創業者の生き様に習って、お客さまの困りごとを何でも解決するのが当社の姿勢です。

製品は多岐にわたる産業分野に納めています。得意分野はお客さまのご要望を基に設計開発するオーダーメードです。また秋葉原の店舗では約5000点のレディーメード製品を販売しています。今は産業技術総合研究所と連携し、小型レーザー加熱装置の開発に取り組んでいます。

景況感でいうと、日本のモノづくりと同様、私どもも厳しい状況です。2013年以降の世の中の流れを考慮すると、予断を許さない状況です。一人ひとりが自分たちの仕事の重要性を理解して、スピード感を持つことが大切だと感じています。

井水　ありがとうございました。お客さまとのコミュニケーションを通じたモノづくりが高い評価のゆえんだと思います。厳しい状況の中でしっかりと祖父の経営理念を引き継ぎ、新しい挑戦をされているのは立派なことだと感じます。

続いてナノテムの高田社長にお聞きします。長岡技術科学大学発のキャンパスベンチャー1号ということで期待の会社です。新技術の開発を積極的にやっておられ、取引先もグローバルですね。

高田　グローバルというのはなかなか日本の会社に相手にしてもらえず、外にしか活路を見いだせなかったというのが正直なところです。当社の販売方法は大体が展示会です。今年はすでに6回ほど出展しましたが、そのうち海外が8割です。

私どもの会社は主に携帯電話やスマートフォン（多機能携帯電話）、タブレット端末のパネルを作る時のテーブルを作っています。パネルにはいろいろなサイズがありますが、どんなサイズのパネルでも固定できるエアロフィックスという吸着盤を作って販売しています。今は韓国や台湾で展開中です。

もともとはこうしたテーブルを作るメーカーではなく、ダイヤモンドの工具を手がけていました。私はもともと研究者出身で理想を求めてしまうんです。「よく切れて減らない工具があればいいな」という思いがスタートでした。近いものはできたんですが問題がありまして、よく切れて減らないと売れないんです。最大の欠点はテストが多く、なかなかお金がもらえない。真空チャックはモノがくっつけばお金がもらえる。分かりやすいですね。

これまで14年間やってきたんですが、今になってもう一度工具の方向へ走ろうと考えています。景気に関しては戻るのを期待するのではなく、景気がいいところへ流れていこうというのが私の考えです。

井水　作りたいものを作るという、挑戦する姿勢が素晴らしいと思います。

羽生田鉄工所の羽生田社長は、中国に進出しておられますが、尖閣問題の影響などはいかがでしょうか。

羽生田　当社は1919年（大8）にボイラの製造を始めました。長野県は蚕糸産業が非常に盛んだったので、蒸気の需要がありました。昭和30年代後半から当時のコア技術を使ってキノコの培地を殺菌する殺菌装置を開発し、50年間ほどやってきました。2003年頃に次の成長の柱として新しい装置の開発を始めました。炭素繊維強化プラスチック（CFRP）という材料を成形する時に用いるオートクレーブという装置です。納入先はレーシングカーや医療機械、産業機械の部品メーカーなどです。圧力容器を使ったOEM（相手先ブランド）供給なども手がけています。

10年6月に中国遼寧省大連に現地法人を開設して、装置の製造販売の拠点としてスタートさせました。09年にようやく一台目の装置を出荷しました。大連は中国の東北部にあります。これからまさに発展していくところで、大連から1000キロ以前後の黒竜江省ハルビンまでの高速鉄道が開業。これを機にビジネスの範囲がどんどん広がっていくと楽しみです。

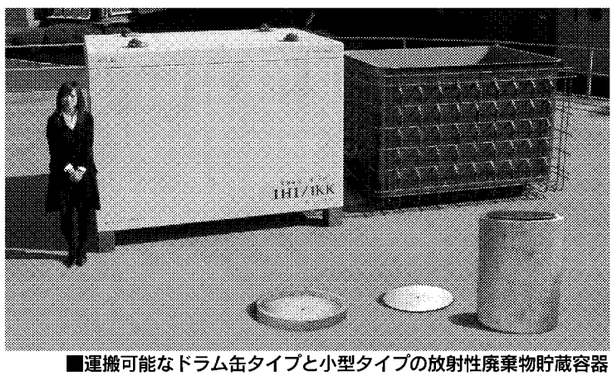
井水　羽生田鉄工所は創業127年という老舗企業なんですね。私どもも日本流の長寿経営の秘訣（ひけつ）を学問的に探る「100年経営の会」という会を立ち上げて、勉強している最中です。

（次ページに続く）

IHIグループ　石川島建材工業が
放射性廃棄物の線量を最大95パーセント低減できる
収納容器を開発いたしました

あらゆるサイズに対応致します。

弊社は主に被災地周辺の土壌やがれきなど、いわゆる「低レベル放射性廃棄物」の線量を最大95%低減できるコンクリート製収納容器を開発いたしました。開発にあたりIHI基盤技術研究所などとグループを挙げて取り組み、落下試験なども実施、安全性も確認しております。除染作業の迅速化や効率化に貢献できる製品としてご提案させていただきます。寸法形状については、ご要望に応じて対応いたします。



■運搬可能なドラム缶タイプと小型タイプの放射性廃棄物貯蔵容器

IKKがご提案する4タイプの収納容器
◎放射性廃棄物収納容器（1）
取り扱いが容易なドラム缶タイプ
◎放射性廃棄物収納容器（2）
運搬・仮置き・保管・移動が可能な小型タイプ
◎放射性廃棄物収納容器（3）
固定設置型の100m³収納可能な中型タイプ
◎放射性廃棄物収納容器（4）
現地組立による400m³～2000m³可能な大型タイプ

石川島建材工業株式会社　http://www.ikk.co.jp/
本社　〒130-0026 東京都墨田区両国2－10－14（両国シティコア）　TEL.(03)6271-7211　FAX.(03)6271-7299
大坂支店　〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4－2－12（東芝大坂ビル）　TEL.(06)6281-2145　FAX.(06)6281-2147
名古屋支店　〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-24-20（名古屋三井ビルディング新館）　TEL.(052)565-8370　FAX.(052)565-8373

お客様と共に未来をつくる
坂口電熱

おかげさまで
創業 90 周年を迎えます
私たち坂口電熱は熱エネルギー変換技術のプロ集団として "熱" に関する課題解決に全力で取り組みます

坂口電熱　営業本部 tel 03-5624-5054　E-mail :sales@sakaguchi.com　坂口電熱 検索　www.sakaguchi.com